

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター元浜
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 6 年 8 月 23 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	アイミティ浜松 大会議室
3 参加者	19名 委員8名（曳馬地区4名、北地区4名）、関係機関11名
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 元浜圏域生活支援体制づくり協議体会長 ・新規委員・関係機関 紹介</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 前年度の振り返り パワーポイント資料を用いて前年度協議体会議の振り返りを行った。</p> <p>(2) 中沢マルシェについて 地域包括支援センター元浜より、昨年度から実施している中沢町の移動スーパーの取り組みについて経過を報告。 中沢マルシェの取り組みのきっかけは、「歩いて買い物に行かれない。介護保険の申請をしたい。」の相談があったことから。地域の方にお聞きすると、中沢町の上の方に住む方は、急な坂が多く、店も公民館もないとの情報があり、そこから自治会や民生委員さんに話が広がり、令和5年12月から移動販売の試行が始まった。中沢マルシェは第1週と3週の木曜日、11時なかざわこども園前、11:30牛山マンション、12:00中沢公民館と回っている。8月1日、15日には、中沢公民館で移動スーパーが始まる前にスマホ講座を開催し、約10名が参加。今後も、来てもらうための工夫をしながら継続して実施していく。</p> <p>(3) ほっとスペースmoca（モカ）の紹介 新津町の一軒家を利用し、集いの場に利用できるスペースとしてオープンした「ほっとスペースmoca」について紹介してもらった。</p> <p>(4) シニアクラブの現状について 曳馬地区シニアクラブ連合会会長を中心にシニアクラブの現状や課題について話をしてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none">・現在の会員は561名。4年で100人減少している。 コロナ禍で活動停止していたことが原因か。・認知症の人も増えてきた。・外に出歩く機会がなく足腰が弱くよろよろしてしまっている状態の人がいる。・北地区のシニアクラブでも男性は参加者少ない状態。ゲートボールをやっている人がいるくらい。

【居場所への参加について】

- ・仕事を定年退職した男性⇒目的意識をなくして疎外感を感じてしまいやすい。役割をもたせることが大事。
- ・中沢町で麻雀サロンを開始。20名集まった。
- ・何をしたいか、目的をもつ
- ・定年になったら何をしようか、地域で何をするかを考えておくことが必要

【地域活動参加のきっかけ】

- ・子ども会に参加することで、その後地域参加につながることが多い。
- ・身近にいた民生委員に誘われ地域の活動に参加することになった。
- ・地域活動参加のための種まきをしていく（人が集まる場づくり）

4. 連絡事項

次回会議日程：令和6年11月22日（金）10：00～11：30

5. 閉会 元浜圏域協議体副会長

**5 今後の見通し・
必要な対応**

今回の協議体では、地域で取り組まれている「高齢者の居場所」について情報提供した上で意見交換を行った。その中で、参加者が福祉活動に参加するきっかけや経緯等を話してもらえる発言があり、その上で今後の地域を盛り上げていくための策を考えていこうという姿勢を強く感じる機会となった。